



「あつという間の九年間」

保護者 飯島 政俊

長女の入園から始まり、気がつけばあつという間に九年間、十歳、十歳、八歳、六歳、四人の娘たちが順番に松代幼稚園でお世話になりました。園服も四人分(次女、三女、四女よ、お下がりが多くてごめんない)、幼稚園での行事にも慣れた頃に、ついに末つ子が卒園です。

長女の入園当時、初めての集団生活での疲れや、溶連菌プール熱にたて続けに罹ってしまい毎週のように早退、欠席を繰り返していました。親としてもとても不安でしたが、早退のお迎え時にめぐみ先生に「集団生活には慣れるから心配いらない。体調不良もご飯をいっぱい食べていっぱい寝ればすぐ良くなる。美味いご飯をいっぱい食べさせてあげてください！」

と笑顔でお声がけを頂き、気が楽になったのを今でも鮮明に覚えています。

四人とも性格は似ているようで実はバラバラ。社交的な子、マイペースな子、お調子者の子、気遣いができる子、それでもどの子も、先生方に温かく見守られ、お友達とたくさんの「できた!」を積み重ねてここまで成長できました。本当にありがとうございます。

毎週木曜日のお弁当作りも、のべ400個を超えるお弁当が作られました。私は調理師をしていうため、「子どものお弁当作ろうか?」と妻に聞いたところ、「大丈夫」と回答され、それ以来ずっと妻の仕事でした。九年間で私が作ったお弁当は三女出産のため妻が入院していた時の一回だけでした。(妻よ!毎週早起きしてお弁当作りありますがとうございました!大変お疲れ様でした!)

運動会や劇遊びなど、四人分の幼稚園生活を通して、子どもたちだけでなく親の私たちもたくさんの出会いと学びを頂きました。木原前園長先生、小林園長先生をはじめ先生方、そして保護者の皆様、本当にありがとうございます。にぎやかだったわが家の「幼稚園生活」もあつという間に一区切り。これから幼稚園で育った元氣と優しさを胸に、四人仲良く進んでいってほしいと思います。

「出会いに導かれて」

年長担任 小田切明夏

今年度が始まった四月。初めての園生活に保護者の方と離れるのが悲しくて泣いている年少さんの姿を見て、年長の子も達が「きつと寂しいんだね。」「私たち、泣いていたよね。早く幼稚園が楽しいところって分かるといいね。」「と、優しく声を掛け、そつと手を差し伸べる姿がありました。同じような思いをした年長さんだからこそ寄り添える温かな姿に胸が熱くなりました。

松代幼稚園に動機させてい

ただき早いもので十年が経ちました。子ども達との関わりの中で心動かされた瞬間がたくさんありました。

虫が大好きだったクラスでは、蚕、カタツムリ、カブトムシ、カニなどたくさん生き物を飼い、子ども達と一緒に世話をしました。ある朝、先生、虫のお母さんになったみたいだね。」「とニコニコな子ども達。一緒に笑い合ったことが思い出されます。また、警察官に興味を持ったクラスもありました。実際の訓練風景を見学させていただきました。特別に警察車両にらせてもらったり、帽子や手帳も見せてもらったりすることができました。刺激を受けた子ども達は、『マイ帽子』と『マイ手帳』を作りました。園庭に行く時には、必ずその帽子を被って遊んでいました。帽子はだんだんと壊れてしまいましたが、テープで直したり画用紙を取り替えたりしながら大事にしていた姿が印象的でした。警察のヘリコプターを見つけると、園庭の真ん中に走っていき『Hのマーク』を描き、空に向かって手を振る子ども達。子ども達の持つ豊かな発想力が素敵でした。



幼稚園という一つの小さな社会の中で、友だちといっぱい遊んだり、話し合ったり、時にはケンカをしながらも考え、成長していることを近くで感じさせていた。子ども達、子ども達のまつすぐな心に、私自身も大切なことを学ばせていただきました。神様に導かれて集った子ども達と、この幼稚園で出会い、一緒に過ごした日々は、私にとつてかけがえのない宝物です。みんなそれぞれ素晴らしいところがあり、誰一人として欠けてはならない存在です。一人ひとりの賜物を大切に、共に喜び励まし合いながら歩んでいきたいと思っています。



＋メッセージ

「きょうこちゃんのクリスマス」

松代教会牧師 小林 護



アドベントからクリスマスへと向かう季節、教会の典礼色は、紫から白へと繋がれていきます。紫は神に心を向ける「悔い改め」の色。そして白は「神の祝福」を表す色。そこで、古来よりアドベントの時は、クリスマスに洗礼を受けられる方の教育期間として、大切にされてきました。

私たちが属する日本基督教団では、「日本基督教団信仰告白」や「信徒必携(教会生活)」を学ぶことが多いかもしれせん。しかし、こうでなければならぬという決まりなどはなく、大抵は牧師に任せられていることのように思えます。洗礼を受けられる方は基本的に、その受洗教会の会員とされますので、受

洗前に役員会に出席していた、役員会の承認を受けるのが一般的です。洗礼は個人の出来事ではなく、神が教会を通して働かれる恵みの業という「秘跡(サクラメント)」の理解がそこにはあります。

◆ ◆ ◆

私が千葉の教会に赴任していたある年のクリスマスに、きょうこちゃんと呼ばれていた女子高校生が、洗礼を受けることになりました。その年の春から礼拝に出席されていて、軽度の知的障がいのある子でしたが、説教の時は静かで(寝ていたかも)、讃美歌を歌う時は体を動かしながら元気に歌っていました。当時の千葉の教会では、高校生は彼女だけだったこともあつ

しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから、救い主である主イエス・キリストが来られるのを、私たちは待ち望んでいます。

フィリピの信徒への手紙3章20節

(聖書協会共同訳)

て、教会の世話好きのおばさまたちのアイドルです。礼拝後の交わりがとても賑やかで、楽しかったこともあつて、きょうこちゃんも居心地がよさそうでした。

◆ ◆ ◆

アドベントクランツが飾られる前のこと。礼拝が終わって、礼拝堂に隣接した牧師室に戻った私のところに、きょうこちゃんがやってきました。牧師室には来客用のソファがあつて、きょうこちゃんはそこにどかつと座ります。突然の来客に「どうしたの?」と声をかけると、手を頭の後ろに組んだまま、「洗礼受けようかなあー」ときょうこちゃんが言います。「えつ、どうして?」と、普通なら言わない言葉で動揺する私。「なんかさあ、いいんだよねー。」この一言が、彼女の信仰告白となりました。

それからあれこれ、いろ

いろありました。一般的な洗礼準備などは、ほぼなしです。役員会の出席は、いつもの笑顔ですんなりクリアー。そうして、きょうこちゃんは生涯一度だけのクリスマスの日を迎えました。

◆ ◆ ◆

さて当日。説教が終わつていよいよ洗礼式です。きょうこちゃんは、会衆席からすくつと立つて、司式をする私の前に。千葉の教会での洗礼は滴礼です。床に置かれた座布団に座つて、牧師が頭部に水滴を垂らすやり方です。式文が読まれ、さあいいよというその時でした。きょうこちゃんは、もうこれ以上低くなれないというくらい身を投げるようにして頭を床につけられた。座布団から体のほとんどが出ています。「きょうこちゃん、頭を上げて!」思わずそう言いたかつたけど、なんだか胸が熱

くなつて言葉になりません。床に頭をつけたきょうこちゃんに水が注がれました。そうして、きょうこちゃんの元氣な賛美の音が響き渡ります。洗礼式は無事終了。

◆ ◆ ◆

アドベントからクリスマスへのグラデーション。色は紫から白へ。教会の伝統やらも、牧師のちっちゃなこころわりも、心配も不安も全部祝福へと変えてくださるこの時を心から喜びたい。主イエス誕生のあの夜に、天使たちが歌ったあの歌の心を、きょうこちゃんが誰よりも知っています。

「いと高き所には栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

りますように。

God Bless You

